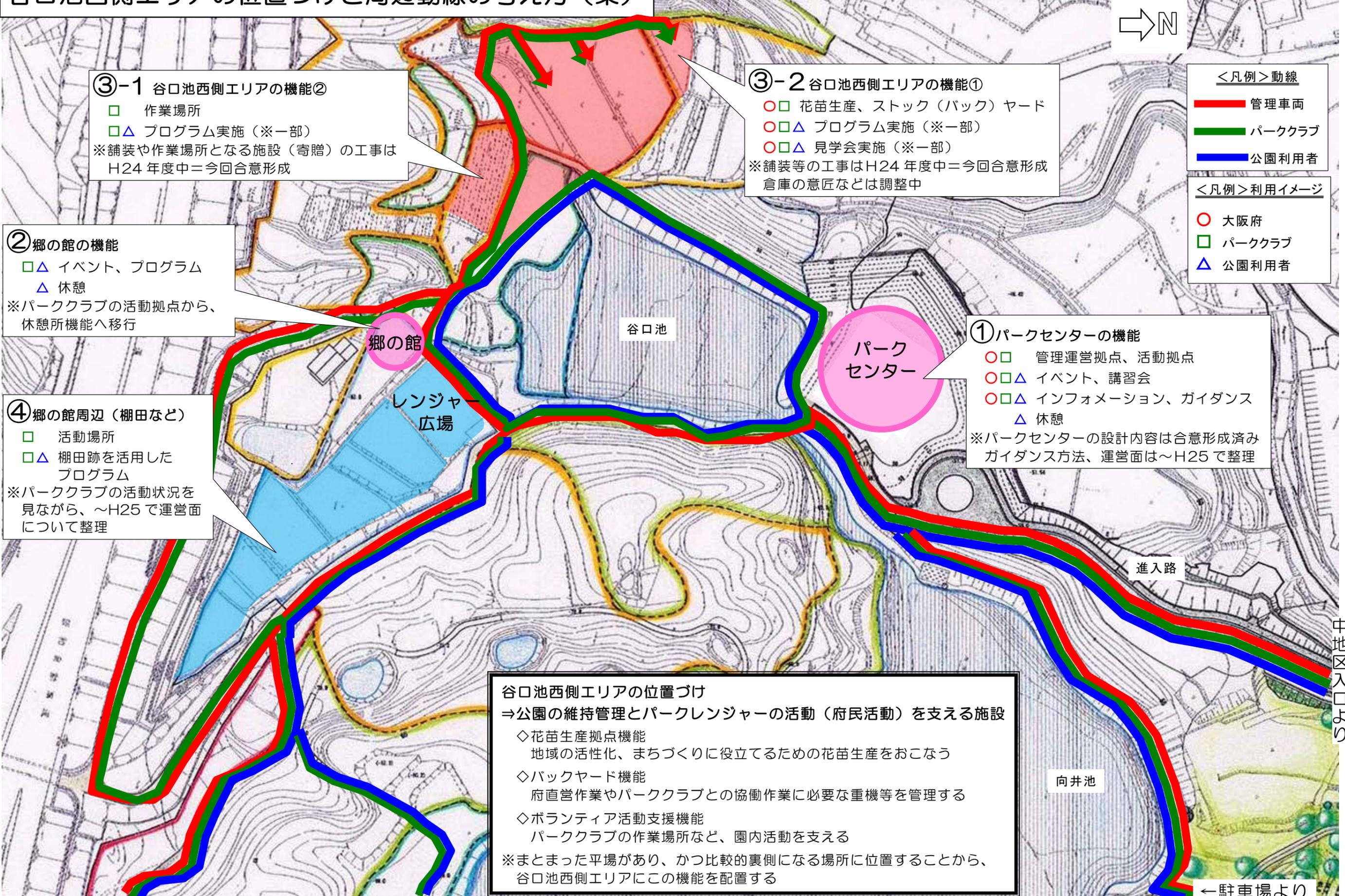
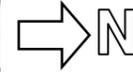


# 谷口池西側エリアの位置づけと周辺動線の考え方（案）

合意形成 1-1



## ③-1 谷口池西側エリアの機能②

- 作業場所
  - △ プログラム実施（※一部）
- ※舗装や作業場所となる施設（寄贈）の工事はH24年度中=今回合意形成

## ③-2 谷口池西側エリアの機能①

- 花苗生産、ストック（バック）ヤード
  - △ プログラム実施（※一部）
  - △ 見学会実施（※一部）
- ※舗装等の工事はH24年度中=今回合意形成  
倉庫の意匠などは調整中

### <凡例>動線

- 管理車両
- パーククラブ
- 公園利用者

### <凡例>利用イメージ

- 大阪府
- パーククラブ
- △ 公園利用者

## ② 郷の館の機能

- △ イベント、プログラム
  - △ 休憩
- ※パーククラブの活動拠点から、休憩所機能へ移行

## ① パークセンターの機能

- 管理運営拠点、活動拠点
  - △ イベント、講習会
  - △ インフォメーション、ガイダンス
  - △ 休憩
- ※パークセンターの設計内容は合意形成済み  
ガイダンス方法、運営面は～H25で整理

## ④ 郷の館周辺（棚田など）

- 活動場所
  - △ 棚田跡を活用したプログラム
- ※パーククラブの活動状況を見ながら、～H25で運営面について整理

### 谷口池西側エリアの位置づけ

⇒公園の維持管理とパークレンジャーの活動（府民活動）を支える施設

- ◇花苗生産拠点機能  
地域の活性化、まちづくりに役立てるための花苗生産をおこなう
- ◇バックヤード機能  
府直営作業やパーククラブとの協働作業に必要な重機等を管理する
- ◇ボランティア活動支援機能  
パーククラブの作業場所など、園内活動を支える

※まとまった平場があり、かつ比較的裏側になる場所に位置することから、谷口池西側エリアにこの機能を配置する

進入路

向井池

←駐車場より

中地区入口より

# 谷口池西側エリアのゾーニングの考え方 (案)

**施設レイアウトの考え方**  
 ◇一般利用不可とすべきもの、「見せないもの」を奥側(下側)に配置  
 ⇒直営作業やパーククラブ活動に必要な資機材倉庫、ヤード  
 ◇「見せることを考える」ものを公園利用者動線側に配置  
 ⇒花苗の苗床  
 ◇パーククラブの活動拠点は、郷の館(現在の拠点)から近い場所に配置  
 ⇒パーククラブ作業場、高速炭化炉

**公園利用者への提供の考え方**  
 ◇資機材等があることから、安全面等の観点で、自由に出入りは不可とする  
 (景観への配慮の観点から、視覚的な遮断は完全にはしない)  
 ◇活動プログラム展開の可能性がある箇所について、プログラム実施時や府・パーククラブの同行により立入可とする

**外周柵**  
 機能上、公園利用者が自由に利用できる区域ではなく、また、安全面等の観点から意思表示の仕切りを設ける。

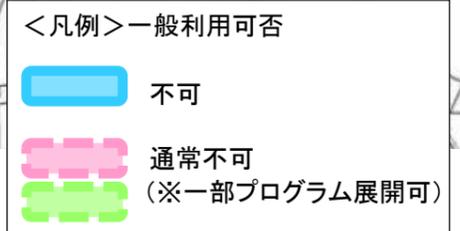
**資材置場、ヤード(上側)**  
 一般利用不可とする(重機や資材の管理上、制限)

**直営作業、協働作業に必要な資機材保管場所(下側)**  
 原則、一般利用不可  
 ※プログラム実施時に、団体受入れスペースとして利用可  
 ※例)学校を対象に建設機械の見学会を実施する等も、今後検討の余地あり

公園利用者は、プログラム参加や許可のもと、門扉から出入り。

**花苗生産場所**  
 公園利用者の自由な出入りは不可  
 活動プログラムでの利用や見学は、許可のもと可例)学校等を対象にした花苗生産体験  
 府民ボランティアによる花苗生産  
 ※花苗生産は府とパーククラブによる協働生産を想定しているが、他の花ボラ等の参画も今後検討

**パーククラブのワーキングスペース、工房**  
 (郷の館でおこなっている作業を移行)  
 公園利用者の自由な出入りは不可  
 活動プログラム内でパーククラブとともに作業をするなどの利用は可  
 ※作業の内容により、郷の館も併用していく

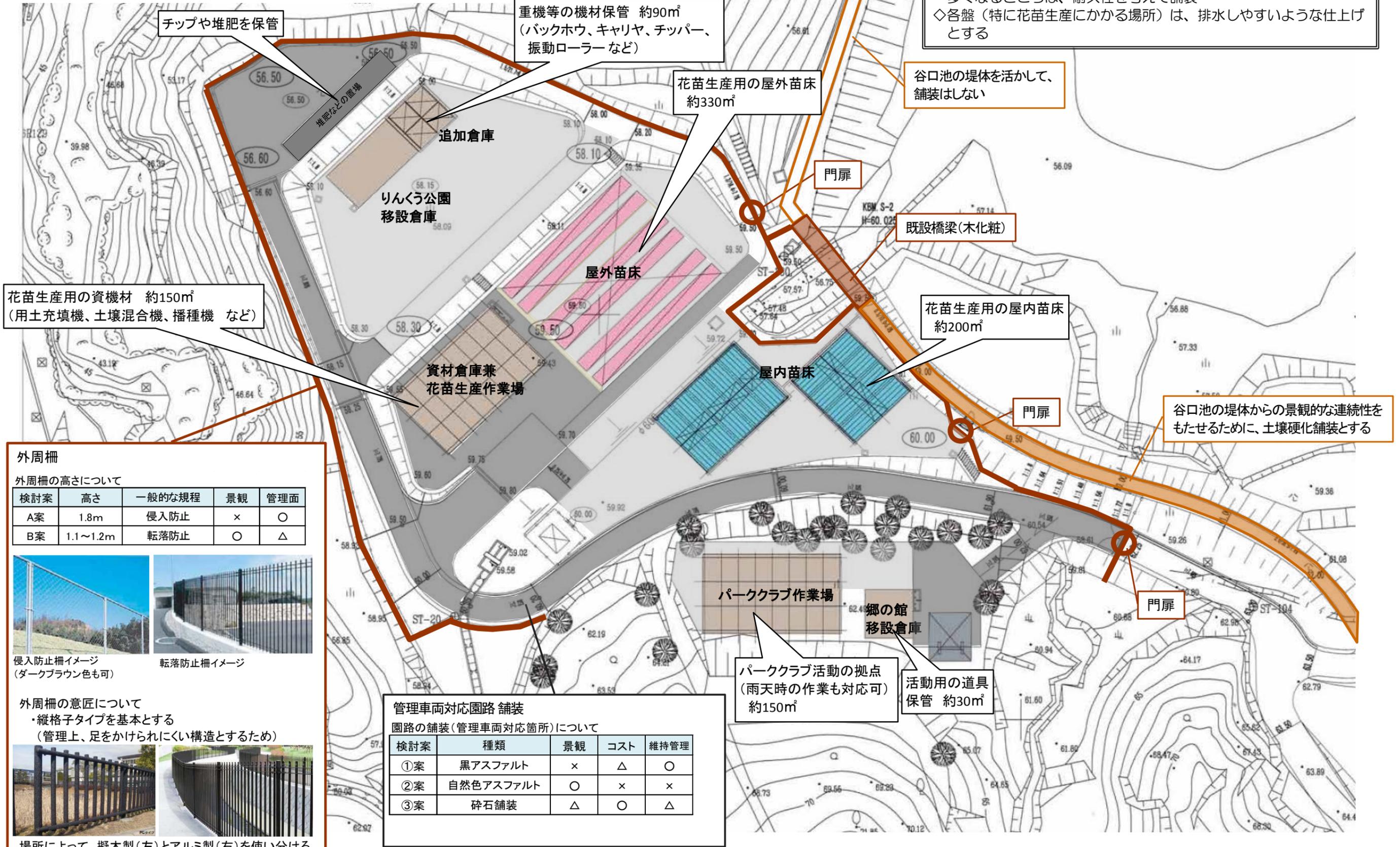


(参考) 今後の事業予定

年度	大阪府(工事発注)	大阪府(移設)	大輪会(寄付)
平成24年度	基盤整備工事 ・埋設管(給水・排水・電気) ・外周柵・管理用門扉 ・園路舗装 等	郷の館 倉庫 高速炭化炉	パーククラブ詰所兼作業場
平成25年度	設備工事 ・電気配線 ・給水ポンプ 等	りんくう公園倉庫 屋外苗床	資材倉庫兼作業所
平成26年度	-	-	ガラス温室

※大輪会からご支援いただく内容、時期については、調整中

# 谷口池西側エリアの施設配置と舗装素材、外周柵の考え方 (案)



◇棚田跡の地形を活かし、盤ごとに施設を配置  
 ◇管理車両用園路、各盤への寄り付き部分など、車両や重機の通行が多くなるところは、耐久性を考えて舗装  
 ◇各盤（特に花苗生産にかかる場所）は、排水しやすいような仕上げとする

谷口池の堤体を活かして、舗装はしない

谷口池の堤体からの景観的な連続性をもたせるために、土壌硬化舗装とする

チップや堆肥を保管

重機等の機材保管 約90㎡  
 (バックホウ、キャリア、チッパー、振動ローラーなど)

花苗生産用の屋外苗床 約330㎡

花苗生産用の屋内苗床 約200㎡

花苗生産用の資機材 約150㎡  
 (用土充填機、土壌混合機、播種機 など)

**外周柵**

外周柵の高さについて

検討案	高さ	一般的な規程	景観	管理面
A案	1.8m	侵入防止	×	○
B案	1.1~1.2m	転落防止	○	△

侵入防止柵イメージ (ダークブラウン色も可)

転落防止柵イメージ

外周柵の意匠について

- 縦格子タイプを基本とする (管理上、足をかけられにくい構造とするため)

場所によって、擬木製(左)とアルミ製(右)を使い分ける  
 公園利用者動線に近いところは、池堤体の柵と合わせて擬木製とする。

管理車両対応園路 舗装

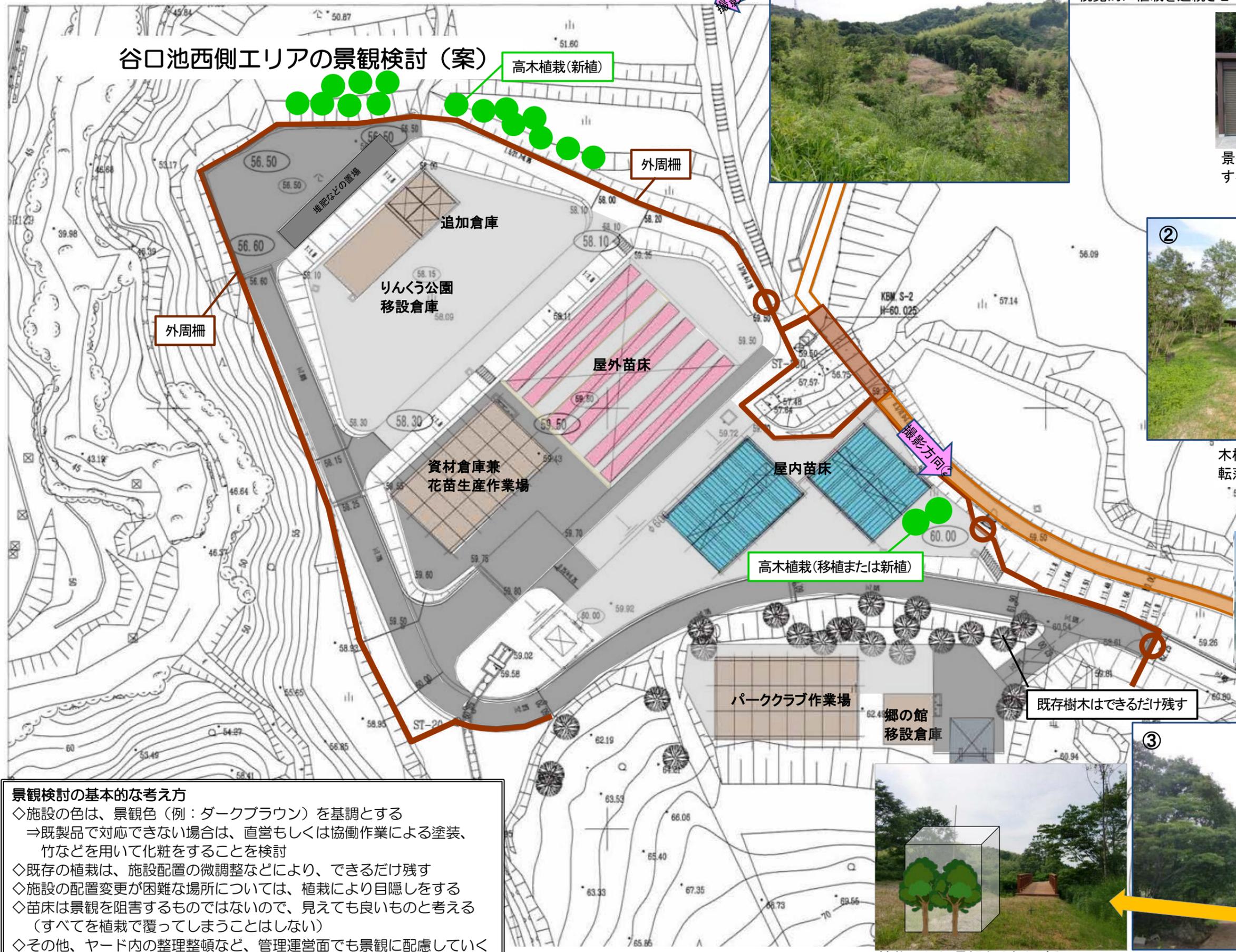
園路の舗装(管理車両対応箇所)について

検討案	種類	景観	コスト	維持管理
①案	黒アスファルト	×	△	○
②案	自然色アスファルト	○	×	×
③案	碎石舗装	△	○	△

パーククラブ活動の拠点 (雨天時の作業も対応可) 約150㎡

活動用の道具保管 約30㎡

### 谷口池西側エリアの景観検討（案）



① 谷口池堤体より、資材置場ヤードを望む  
視覚的に植栽を連続させて目隠し  
作業場、倉庫



景観色(例:ダークブラウン)を使用するなど、意匠は調整中

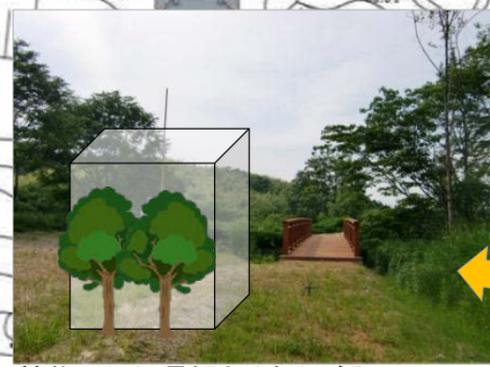


木橋より、郷の館を望む  
転落防止柵(1.1~1.2m)設置イメージ



屋外苗床(ガラス温室)

意匠については調整中



植栽により、景観をやわらげる

**景観検討の基本的な考え方**

- ◇施設の色は、景観色(例:ダークブラウン)を基調とする  
⇒既製品で対応できない場合は、直営もしくは協働作業による塗装、竹などを用いて化粧をすることを検討
- ◇既存の植栽は、施設配置の微調整などにより、できるだけ残す
- ◇施設の配置変更が困難な場所については、植栽により目隠しをする
- ◇苗床は景観を阻害するものではないので、見えても良いものとする(すべてを植栽で覆ってしまうことはしない)
- ◇その他、ヤード内の整理整頓など、管理運営面でも景観に配慮していく

既存樹木はできるだけ残す



元の設計

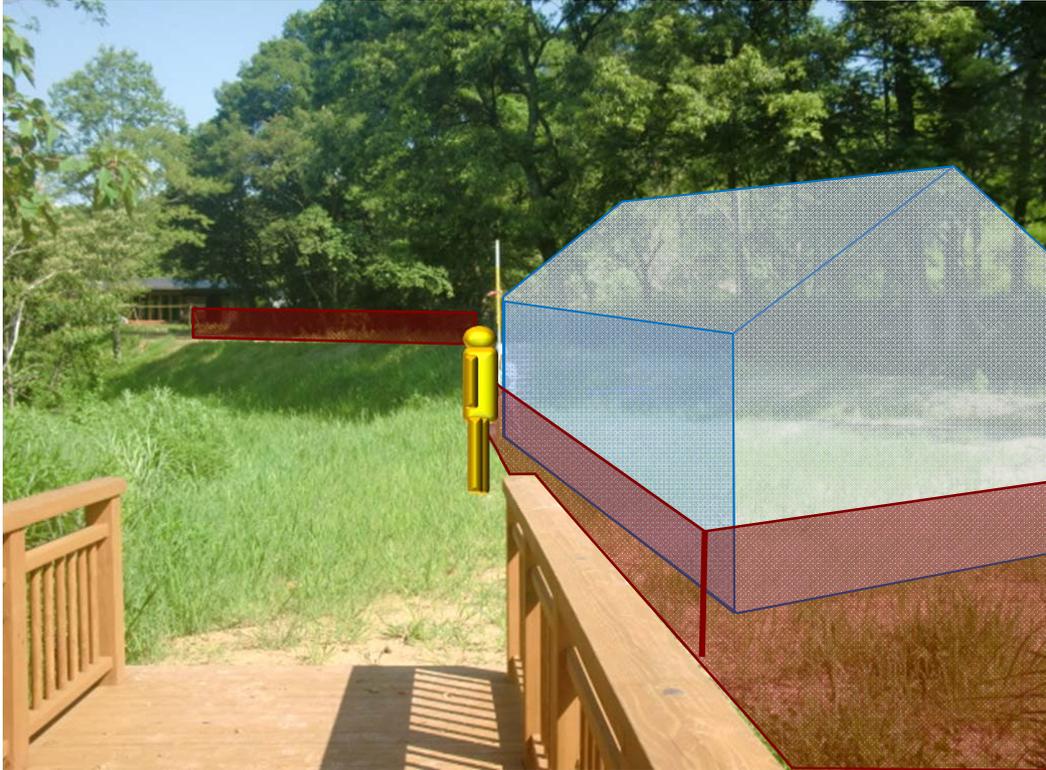


倉庫をブラウン系にする



温室の前に植栽をする

人道橋から郷の館方向を見る



人道橋から苗床方向を見る

